

## 第6章 今後の取組

本計画により定めた各整備計画の整備目標達成に向けては、その整備にかかる費用を確保するとともに、着実な計画実施が重要となります。

### 6-1 整備目標の達成に向けて

整備に必要な費用の確保および着実な計画実施に向けて、次のことに取り組みます。

#### (1) 国の補助金等を有効活用した予算の確保

今後も厳しい財政環境が続くものと予想されることから、国の補助金等を有効活用します。

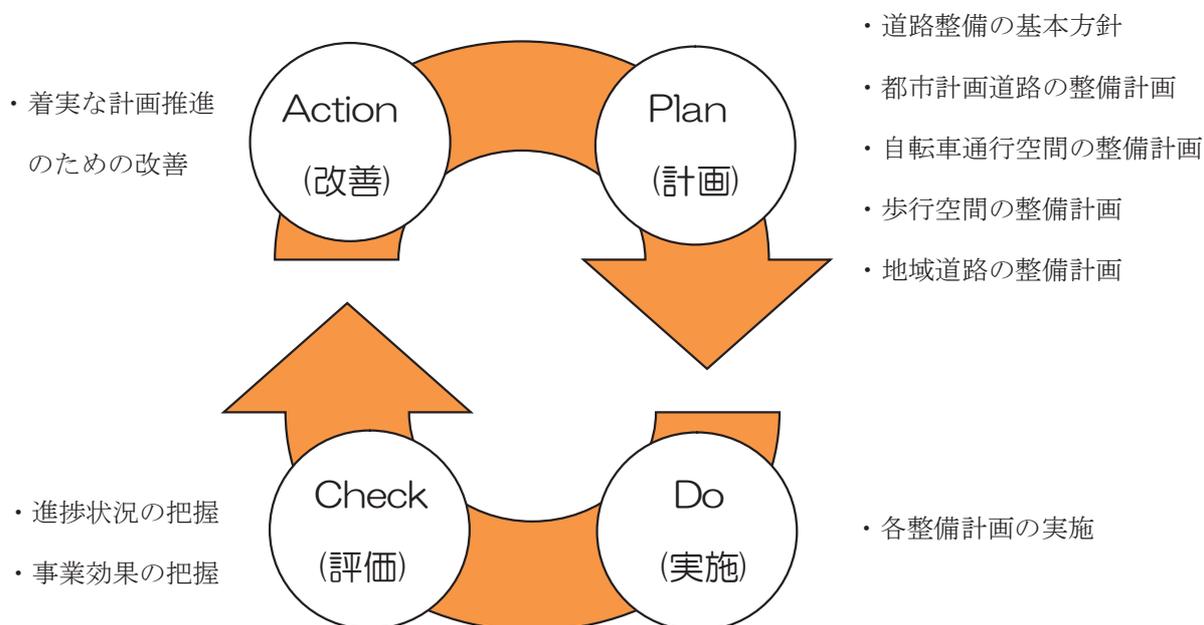
- 1) 社会資本整備交付金の活用
- 2) 新しい制度の積極的な活用や他分野における制度の研究

#### (2) 福山市道路維持修繕計画との連携

道路施設の老朽化対策が大きな課題となっている現状を踏まえ、「福山市道路維持修繕計画」の着実な実施を優先としながらも、持続可能なまちづくりの視点に立った計画実施に取り組みます。

#### (3) PDCAサイクルによる計画の見直し

本計画を適切に推進するため、事業進捗状況や事業効果の把握などを行い、継続的な事業実施が行えるよう、適宜計画の見直しを行います。



## 6-2 今後の道路整備に向けて

これまでの道路整備の視点に加え、人口減少や少子化・高齢化の進行、価値観の多様化などを踏まえ、将来のまちづくりを見据えた新たな道路整備も検討していく必要があります。

新たな道路整備については、社会実験などにより課題を把握し、有効性を検証する中で取り組んでいきます。

### (1) にぎわい創出に向けて（道路空間の再生）

車社会の到来や郊外への大規模商業施設の立地などにより、福山駅周辺を訪れる人は減少しており、魅力やにぎわいの創出が求められています。

こうしたことから、2018年度（平成30年度）には、駅周辺の回遊性向上などを図り、にぎわいの創出に向けて、福山城南側道路（市道 西町若松線）や伏見町地区内の道路において、国の地方再生コンパクトシティのモデル都市として選定を受け、道路を歩行者優先空間とする実証実験を行い、道路空間の再生に取り組んでいます。

2022年(平成34年)に迎える福山城築城400年に向け  
福山城を中心とした駅南北ゾーンの一体化を考える実証実験

朝顔中は  
楽しいイベントが  
いっぱい!

福山駅周辺を  
楽しく“まち歩き”しませんか?

福山駅周辺で交通規制を行います。  
まわローズが  
迂回導行と  
なります。

2018年  
(平成30年) **10月29日(月)～11月4日(日) 7時～20時**  
※上記の日時は、下図の区間が **車両通行止め(自転車は除く)** になります。

2019年  
(平成31年) **11月2日(金)～11月4日(日) 10時～21時**  
※上記の日時は、下図の区間が **車両通行止め** になります。

実証実験実施区間

アンケート調査  
協力をお願いします

アンケート調査を実施しています。  
詳しくは下記ホームページで  
ご確認ください。  
福山市道路建設課

※アンケートにより今後の改善案を  
集めます。詳しくは下記  
ホームページでご確認ください。

実施の目的

①歩行者優先のまち歩き環境の創出  
②歩行者優先のまち歩き環境の創出  
③歩行者優先のまち歩き環境の創出

福山城南側道路(市道西町若松線)について  
※実証実験は11月12日(水)～11月17日(金)に、午  
前8時から午後5時までの間、実施いたします。

福山市  
総務課 都市計画課

お問い合わせ先  
TEL: 084-828-1000  
FAX: 084-828-1009  
E-MAIL: kosei@city.fukuyama.lg.jp

実証実験案内チラシ



歩行者天国化



イベント実施状況①



イベント実施状況②



伏見町における実験状況

## (2) 生活道路の安全性向上に向けて

近年の交通事故統計によると、歩行者、自転車乗車中の死者は、約半数が自宅から500m以内の身近な道路で発生しており、生活道路における交通安全対策が緊急の課題となっています。

その対策の1つとして、面的に時速30キロの速度規制とする「ゾーン30」を7地区において、公安委員会が指定済みであり、この「ゾーン30」の取組に併せて、道路管理者（本市）が路面標示や区画線などの対策を実施しています。新たな地区の指定に併せて、今後も継続して取り組んでいきます。

また、2017年度（平成29年度）には、大門町大津野地区において、国の公募型実証実験の採択を受け、路面標示や区画線などによるソフト対策とハンプや狭さくなどによるハード対策を組み合わせ、自動車の速度抑制対策を検証する実証実験を実施しました。

この実験結果を踏まえて、2018年度（平成30年度）から、大津野地区を含む市内3地区において、対策事業を実施し、生活道路の安全性向上に向け、今後も継続して取り組んでいきます。

### ゾーン30の取組

#### ゾーン30 実施地区一覧

地区	対象面積
東川口町	66.7ha
新涯町三丁目	28.8ha
新涯町一丁目	38.6ha
曙町五丁目	30.0ha
曙町三丁目	55.0ha
松永町五丁目及び六丁目	13.6ha
駅家町倉光	34.3ha



ゾーン30 実施状況

2018年（平成30年）11月現在

### 大津野地区実証実験の状況



大津野実証実験（狭さく）



大津野実証実験（ハンプ）

### (3) 楽しめる機会づくりに向けて

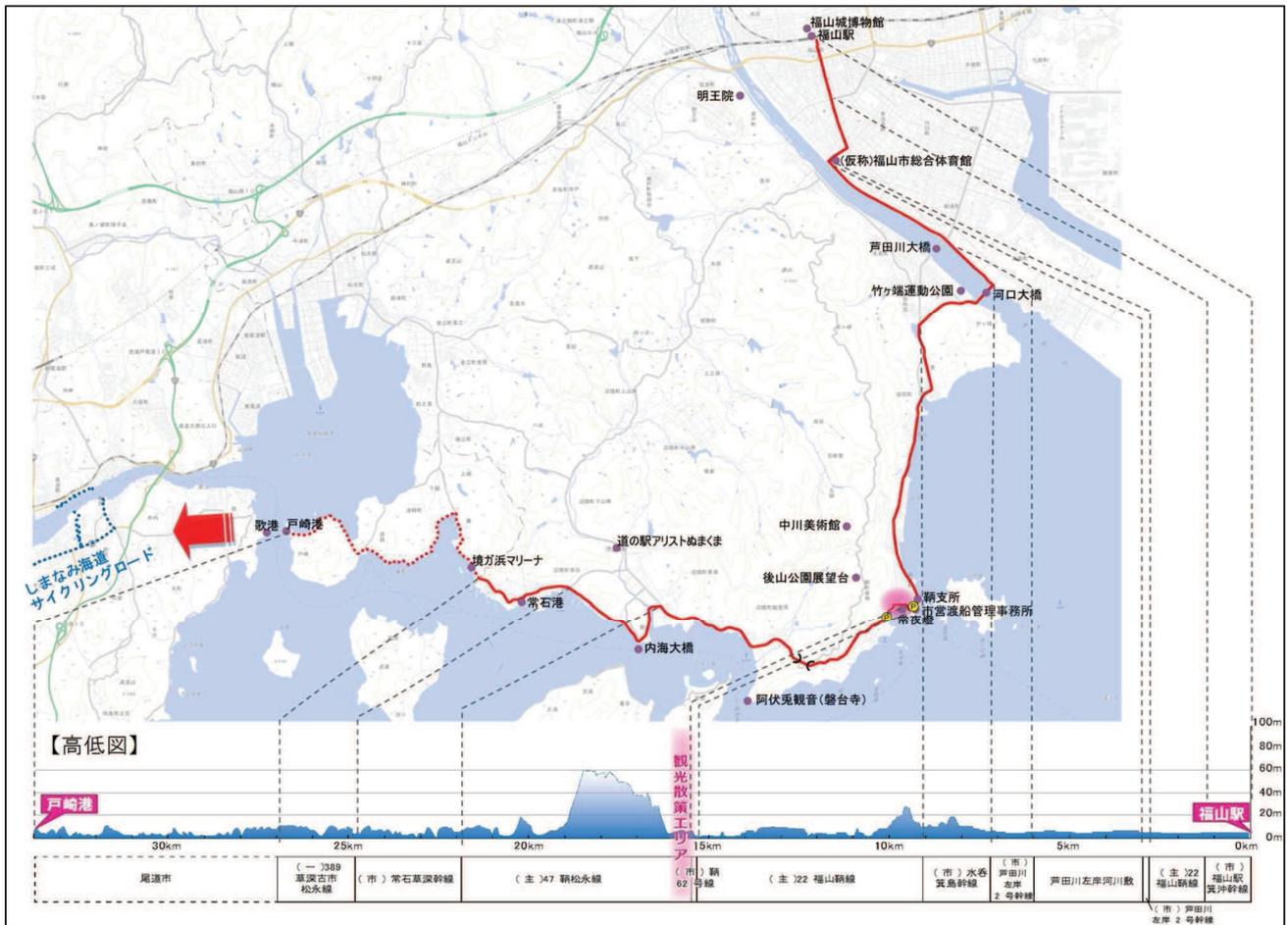
近年、自転車は環境に優しく、健康に良い乗り物として注目を浴びており、「自転車の似合うまち 福山」を目指し、自転車の利用促進に取り組むとともに、「楽しめる機会づくり」の取組みを推進することを目的に、「ふくやまサイクリングロード基本計画」を策定しています。

この基本計画に基づき、「しおまち海道サイクリングロードメインルート整備計画」を策定する予定であり、今後は、楽しめる機会づくりとして、計画的な整備に取り組んでいきます。

なお、本計画の「第3章自転車通行空間の整備計画」は、通勤や通学等の日常生活における移動手段である、自転車の関連事故の減少を目的としています。

#### ○ふくやまサイクリングロード基本計画におけるメインルート

福山駅から、福山市総合体育館、芦田川沿い、芦田川河口堰（河口大橋）を經由し鞆の浦の観光散策エリアに至り、鞆の浦から内海大橋や常石港を経て、尾道市境（境ガ浜）へ至るルートです。



ふくやまサイクリングロード基本計画におけるメインルート図（尾道市内のルートは調整中）

【出典：地理院地図（電子国土Web）を加工して作成】